



おぎ  
だより

平成28年11月号

杉並区立井荻小学校

平成28年10月31日発行 No.580

## 創立65周年に寄せて

校長 小澤 伸生

去る10月13日(木)、代表委員会の子供たちが中心となって、本校65回目の誕生日を祝う開校記念集会を行いました。井荻小の歴史に関わるゲームやクイズを楽しみながら、本校が多くの卒業生や地域の方々に愛され、支えられてきた歴史に、子供たちは思いをはせてくれたことでしょう。

本校が開校した65年前、昭和27年とはどのような時代だったのでしょうか。少し調べてみました。スポーツ・文化の世界では、漫画「鉄腕アトム」が月刊誌「少年」に連載開始。ボクシングでは白井義男選手、日本人初の世界チャンピオンとありました。映画「風と共に去りぬ」が大ヒットしたのもこの年のようです。政治に目を向けると、一番の出来事は日本とアメリカの間に結ばれたサンフランシスコ平和条約の発効ではなかったでしょうか？日本はGHQによる統治から主権を回復したことになります。

こうしてみると、本校はまさに終戦から5年、多くのものが失われ、荒野となった日本が、新しい時代に力強く踏み出す時期の到来と共に生まれた学校と言えるのではないのでしょうか。それは校長室に残るガリ版刷りの昭和27年「井荻小PTA會報・落成記念号」の中の次の一文からもうかがえます。

「我が国が、六ヶ年の余の占領から解放されてとにかく、独立できた年に、私共の井荻小学校が創立されたということ、うれしく思います。…

子供たちも、この学校に誇りと喜びをもって日々に学び育っています。若竹のように大地に根を張りつつ、ぐんぐんと伸びて、力強い、働く社会人に育って欲しいものです。」  
(編集後記より 原文ママ)

本校の建つこの土地は、学校ができる前は葦の生える沼地だったとのこと。曲がりくねった善福寺川の流れは澄み、フナ、コイ、ウナギなどが泳ぐ姿を

見せていたそうです。そのほとりに建てられた木造2階建てのモダンな校舎は、きっと新しい時代の到来を象徴する姿に映ったことは想像に難くありません。

時代は進み、日本は高度成長期を迎えます。同じく校長室に残る資料「善福寺川風土記」(社会科の副読本として昭和35年、当時の教職員が作成した冊子)からは、本校を取り巻く自然環境の変化を知ることができます。

「五十年、いや十年前の善福寺川は、どんなだったろう。魚などが善福寺の池から泳いできた。貝なども住みついた。水もきれいだった。泳いでいた人もいた。しかし時の移り変わりははげしい。ごみが捨てられ、下水が流れこんだ。清らかな水の時代から、汚い川までの移り変わりが早かった。善福寺川にきれいな水が流れるのは望めないのだろうか。若がえった善福寺川を一度みたい。」  
(6年生の作文 一部略)

物質的な豊かさと引き替えに、全国で環境の悪化を招いた時代を、児童は善福寺川から感じ取っていたようです。そして既に当時の児童の中に、きれいな善福寺川の復活を求める心が生まれていたことに驚きを覚えます。

本校が現在取り組んでいる善福寺川を巡る環境学習は、半世紀の時の中で熟成され、平成21年、5年生の社会科での学習を基にして生まれました。そして代々の6年生へと引き継がれ、29年度には善福寺公園「みんなの夢水路」の工事着工として一つの成果を生むまでになりました。

校舎は変わり、本校を取り巻く環境も時代と共に姿を変えました。しかし、井荻の地、ふるさとを思い、見つめる本校児童の活動を、未来を変える力として今後も引き継ぎ、育てていくことを、65周年のこの時に改めて心に刻みたいと思います。



# 食育の取り組み～食べるって楽しい！～



栄養士 峯岸 美野里

「今日の給食なに?」「今日の〇〇おいしかった!」「また今度〇〇作って!」と、よく子供から声を掛けられます。そんな子供たちの声や、給食室に戻ってくる食缶の様子から、井萩小の子供たちは“食べる楽しみ”や“食べる意欲”が強いことを感じます。

【食育】では、栄養のこと・食材のこと・食べ方のこと・伝統食のこと等々、さまざまな食に関わる指導をします。その指導の教材となるのが毎日の給食です。子供たちの学びを深め、毎日の喜びとなる給食を目指して、日々の献立を作成しています。



今年度、毎月行っているのが「いおぎ発 ふるさと行き 味めぐり旅」と題した郷土料理めぐりです。日本各地に古くから伝わる料理を知ることによって自国文化の理解につなげたいと考えています。

日本の郷土料理を知るとともに、世界の料理も給食に取り入れています。2020年の東京オリンピックに向けて、世界の文化に目を向けるきっかけになればと考え、給食時間にその国にまつわるクイズ等も行っています。

## 熊本県郷土料理\*高菜飯・だご汁

生活科や家庭科の時間を使った学習もあります。1年生ではグリーンピースのさやむき、2年生ではそら豆のさやむきを行いました。実際に食材に触れること、また下学年の子供たちがむいてくれた、と知ることによって食べる意欲につながりました。6年生では「下級生が喜ぶ給食のメニューを考えよう」という学習をしました。1食分の献立をたてるおもしろさと共に、楽しさも感じたようです。



6年生\*家庭科の様子

これら食育の学びの根底にあるのは「食べるって楽しい」という喜びだと思います。今後も、楽しくおいしい学習で「食」に関する正しい知識と「食」を選択する力を身につけていきたいと思っています。



## いよいよ展覧会

図工専科 廣瀬 祐美

12月9日(金)・10日(土)に展覧会を開催します。全校児童の図工と家庭科の作品が一つの会場に展示され、体育館が彩られます。

今回の展覧会では、つながりと語らいを意識して取り組んでいます。まずきょうだい学年やクラスの友達と互いの作品を「みる」活動を通して交流します。続いて土曜には各クラスまたは学年で図工のワークショップを行います。子供たち、先生、保護者の方、地域の方みんなで「つくる」活動を通して語らい、つながってほしいとの願いから企画しました。

また各学年の展示に加えて全校で取り組んだ装飾、学年で取り組んだ制作物、展覧会に向けて制作している様子を追った写真も展示します。「つくる」ことは子供たちにとって心と密につながっている活動です。作品を通して井萩小の子供たちの心の成長を感じていただければ幸いです。

2年生  
初めて段ボール  
カッターを使い  
ました。



6年生  
将来の自分を表し  
ます。

# 井荻小の読書旬間

学校司書 土屋文代

井荻小学校には学期に一回の読書旬間があります。二学期は10月24日から11月4日まで。本好きの多い井荻小の子供たちですが、もっともっと多くの本に親しめるように、いろいろな方法で「本との出会い」を演出しています。

10月に入って2、3年生はお気に入りの一冊を選び、その本の帯をつくりました。昨年度も行いましたが「いおぎ書店をひらこう」というこの活動は、子供たちの大好きな学習です。

まず、「本の帯ってなんだろう？」と、その効果や特徴についてみんなで考えます。「本の帯」という言葉すら知らなかった子供が、「本屋さんにある」とか「表紙が見えるようになっていて目立つ」など、その本を手にとってもらうためには、どんな工夫があるかを意識し始めます。次に、キャッチコピーを考えます。実はこれがこの学習のメインです。本を最後まで読み、内容を考えながら一言でぐっと目を引くキャッチーな言葉を考える・・・なかなか難しいことです。当然初めは、たいていの子供がわからないと困り顔。ところが、先輩たちの作品や、一般絵本の帯の例を紹介すると、個性的な言葉をひねり出し始めます。続いてクラスで先にできた人の作品を紹介すると、更に困っていた人たちも頑張り始め・・・ついに個性的なキャッチコピーがみんな完成しました。なかにはあらすじに力を入れる人もいますが、それも個性。「言葉」にはその人が出ます。自分の言葉で自分の大好きなものを表現することは、実はとても大事なことなのかもしれません。そんな素敵な活動が毎年できる幸せを味わっています。

いおぎ書店は11月1日から正面玄関（各週で学年クラスが変わります）や新校舎入り口、図書館前で開店していますので、是非ご覧ください。

さあ、読書の秋。みなさんはどんな本に出会うでしょうか。井荻小の地域である西荻の町は書店も古本屋さんも図書館も個性的で楽しめます。おうちでも、本の話題で盛り上がってみてください。

2年生 本の帯作成中



2年生 本の帯でおすすめ！発表会



# 11月行事予定

1	火	
2	水	SC
3	木	文化の日
4	金	読書旬間終 町たんけん2年
5	土	
6	日	
7	月	理科出前授業5年 SC
8	火	
9	水	ふれあいタイム
10	木	移動教室前日健診5, 6年生
11	金	安全指導
12	土	震災急援助訓練
13	日	
14	月	富士学園移動教室始 給食体験会 SC
15	火	
16	水	富士学園移動教室終 ふれあいタイム
17	木	
18	金	避難訓練 荻窪中とのクリーン運動
19	土	
20	日	
21	月	クラブ SC
22	火	社会科見学4年
23	水	勤労感謝の日
24	木	就学時健診 秋さがし1年
25	金	走り方教室4~6年
26	土	土曜授業
27	日	
28	月	走り方教室4~6年 SC
29	火	保育園児の授業参観1年
30	水	連合音楽会5年 ふれあいタイム

SC・・・スクールカウンセラー来校日

## 11月生活目標

### 「言葉を大切にしよう」

生活指導部 中村 光春

みなさんの周りにいる子供たち（これは井荻小学校の児童に限りません）の言葉はいかがですか？

今、子供たちの世界では「しね」「うざい」「きもい」など、相手の人格を一瞬で否定する言葉が日常的に使われている現実がある気がしています。そうなった理由は様々でしょうが、はっきりしているのは、今生きている子供たちがそうした言葉を獲得しやすい状況にいることでしょう。子供たちの目にするメディアでは、ときに面白おかしく、印象的にそれらの言葉を扱っているように思います。

「言葉は人格そのものだ」といわれるのを聞いたことがあります。「言葉が人生をつくる」と言う人もいます。人はたった一言で失意のどん底に突き落とされることもあれば、何気ない一言で力強く生きていく勇気を手に入れることもあります。

インターネット、SNS等の拡大で、人間関係の希薄化が懸念されている今、子供たちが円滑なコミュニケーションができる環境が大切だと感じています。円滑なコミュニケーションには、温かな言葉が必要です。ちょっと油断すれば、人を傷つける言葉に囲まれてしまう現在だからこそ、良好なコミュニケーションや温かい言葉が育つような働きかけを大人が意識的にしていかなければならないと思います。

温かな言葉が増えれば、人はその環境の中で、安心して自分の力を最大限に発揮できるのではないのでしょうか。

教師が温かな言葉を大事にすれば、きっと子供たちもそれをモデルとして、温かな言葉を大事にすると思います。今月の生活目標は子供たちに与えるも



空から見たら、どんな鳥の絵になっているのだろう！

### 65周年記念

航空写真撮影の様子

## 走り方教室

オリンピック・パラリンピック教育の一環で、元バルセロナオリンピック400m選手、渡邊高博氏をお招きし、正しいフォームの走り方を教えていただきます。世界で戦ったスポーツ選手から走り方を直に教えていただくだけでなく、経験などをお聞きする貴重な機会です。